

【特集】特許権侵害訴訟における現状と考察

3 一企業の視点から見た特許権侵害訴訟

宮内 弘 (Hiroshi Miyauchi)  
株式会社 東芝 研究開発統括部 首席主監(元 知的財産部長)

7 米国との比較による日本における  
特許権侵害訴訟についての雑感

矢作 隆行 (Takayuki Yasaku)  
ホーガン・ロヴェルズ法律事務所外国法共同事業(執筆時) 矢作外国法事務弁護士事務所 代表  
外国法事務弁護士(原資格国法:米国ニューヨーク州) 弁理士(特定侵害訴訟代理業務付記)

11 特許権侵害訴訟制度の改正論議について

伊原 友己 (Tomoki Ihara)  
三木・伊原法律特許事務所 弁護士

20 特許侵害訴訟における権利の安定性向上に  
向けた現状と課題

澤井 智毅 (Tomoki Sawai) 沖田 孝裕 (Takahiro Okita) 貝沼 憲司 (Kenji Kainuma)  
特許庁 審査第二部長(前 審査第一部 調整課長) 特許庁 審査第一部 調整課 課長補佐 特許庁 審査第一部 調整課 課長補佐

31 我が国の知的財産関係訴訟の現状について  
— 特許権侵害訴訟を中心に —

品田 幸男 (Yukio Shinada) 松川 充康 (Mitsuyasu Matsukawa)  
最高裁判所 事務総局行政局 第一課長兼第三課長 最高裁判所 事務総局行政局付

【寄稿・連載】

44 商標無効審判の審決の確定による一事不再理効が及ぶ客観的範囲  
— 知財高裁平成26年3月13日判決(判時2227号120頁、①事件判決) /  
同平成26年2月5日判決(判時2227号109頁、②事件判決) —

田中 昌利 (Masato Tanaka) 鶴木 崇史 (Takashi Unoki)  
長島・大野・常松法律事務所 弁護士 長島・大野・常松法律事務所 弁護士

54 イタリアの知的財産制度  
— 我が国制度との対比から見る特徴及びその変容について —

吉川 景司 (Keishi Yoshikawa) 穴戸 一樹 (Kazuki Shishido) タランティーノ・クリストフォロ  
弁護士法人 瓜生・糸賀法律事務所 弁護士法人 瓜生・糸賀法律事務所 (Tarantino Cristoforo)  
アソシエイト 弁護士 パートナー 弁護士 イタリア・ピサ弁護士会所属  
イタリア司法修習生

61 中国における知財専門裁判所の概要と今後の展望

分部 悠介 (Yusuke Wakebe)  
IP FORWARD法律特許事務所 代表弁護士・弁理士  
IP FORWARD China (上海擁智商務諮詢有限公司) 董事長・総経理

67 メキシコ商標制度に関する検討 — 質の向上に向けた問題点の提示 —

カラベト・ホベルト (Roberto Carapeto)  
ブラジル弁護士(Licks特許法律事務所) 早稲田大学知的財産法制研究所(RCLIP) リサーチコラボレータ  
「ブラジル知財」ウェブサイト管理者

75 米国特許侵害訴訟における明確性の基準  
Nautilus, Inc. v. Biosig Instruments, Inc., 134 S. Ct. 2120 (2014) (合衆国最高裁2014年6月2日判決)の解説

泉 卓也 (Takuya Izumi)  
特許庁 審判部審判課審判企画室 課長補佐

83 米国特許訴訟における弁護士報酬の敗訴当事者負担の動向

山口 裕司 (Yuji Yamaguchi)  
ユアサハラ法律特許事務所 弁護士

91 第85回 ワシントン便り

今村 亘 (Wataru Imamura)  
(一財)知的財産研究所 ワシントン事務所 所長